

## 1 日 目

## 第6学年2組 社会科学習指導案

平成28年2月4日（木）公開授業Ⅱ

平成28年2月5日（金）公開授業Ⅰ

会 場 3階-④

授業者 新潟大学教育学部附属新潟小学校

教諭 大矢 和憲

### 1 単元名 よりよい社会をつくる ― 人々の願いと政治 ―

### 2 本単元の価値

本単元は、学習指導要領解説社会編6学年の内容(2)のアに準拠して設定した。

本単元の目標は次のとおりである。

人々の願いやよりよい社会を実現している政治の働きや仕組みについて、具体的に調べたり考えたりすることを通して、我が国における民主政治の意味をとらえることができる。

はじめに、歴史学習との接続と本単元の学習内容を考慮し、本単元前に内容(2)のイについて学習させる。こうすることで、子どもは、これまでの我が国の歴史と現在の政治とを比較したり、日本国憲法と関連付けたりして政治の働きについて学習することができる。また、政治の働きについて考える際に重要になる税金の役割についても事前に学習させておく。

本単元では、「政治は主権者である多くの人々の願いやよりよいくらしを実現するために行われている」という民主政治の意味をとらえる子どもを目指す。

この意味を実感を伴ってとらえられるようにするために、新潟市アイスアリーナ（以下、アイスアリーナ）建設の事例と、こども医療費助成制度（以下、医療費助成）の事例を取り上げる。

アイスアリーナ建設は、主権者である市民の願いが政治によって実現した成功事例である。

平成15年に新潟市からアイススケート場が無くなった。当時「公設は難しい」としていた市を動かしたのは、「市にスケート場をつくる会」を中心とした多くの市民だった。市民による請願書や約13万5千人もの署名の提出、市議会の請願採択、市の調査や立案といった過程を経て、平成26年に約22億3千万円の税金を使って建設された。利用したことのあるアイスアリーナ建設までの一連の過程を具体的に調べて明らかにすることで、人々の願いを実現する政治の仕組みと意味を、国民主権と関連付けてとらえることができる。

また、こども医療費助成は、多くの子どもが助成対象期間の拡大を願う事例である。

多くの自治体で実施されている子どもの医療費助成であるが、助成対象期間等は自治体によって異なる。新潟市では、市民アンケート等の意見を基に、子育て支援の中心的な取組としてこれまで年々医療費助成の対象期間や条件を拡大してきた。平成27年度の当初予算は約17億8千万円である。現在は平成27年9月に助成対象期間を拡大し、入院は高校卒業まで1200円／日、通院は小学校卒業まで530円／日の一部負担金（調剤費含む）で医療機関を受診できる。しかし、高校生までの子どもが3人以上いる場合は、入院も通院も高校卒業までが医療費助成の対象となっている。この違いから、子どもは助成対象期間の拡大を願うが、それができない現実がある。

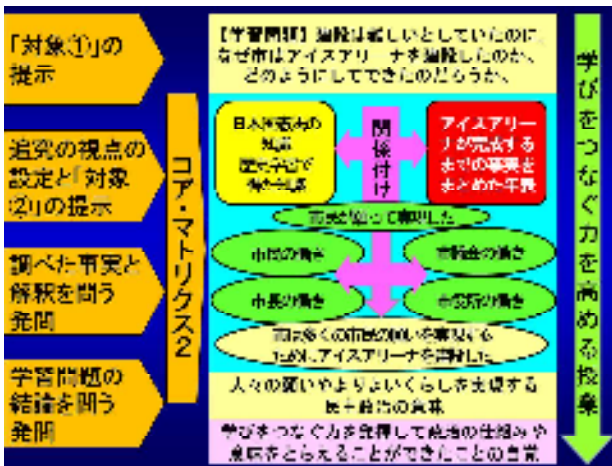
市や市議会は、限られた予算の中でより多くの市民の願いを実現したりくらしをよりよくしたりするための様々な取組と税金の使い方を考えて決めている。願いがすぐには実現できない目的や要因を考えることで、多くの人々の願いとよりよい社会を実現する政治の働きと意味を、税金の使われ方と関連付けてとらえることができる。

このように、国民の願いを実現し、国民生活の安定と向上を図っている政治の働きや仕組みを、国民主権や税金の使われ方と関連付けて学ぶことができる単元である。

### 3 本単元で目指す姿

#### (1) 「中核的な学習内容」

「政治は主権者である多くの人々の願いやよりよい社会を実現するために行われている」という民主政治の意味



## (2) 「学びをつなぐ力」

- ① 関係付けるすべを用いて、既有事項から設定した追究の視点を基に、学習問題の解決につながる事実を調べる力
- ② 比較するすべと関係付けるすべを用いて、学習問題の解決につながる事実と解釈を結び付けて、事象の目的や要因を考える力

## (3) 「学びをつなぐ力」の有用性の自覚

「学びをつなぐ力」を発揮して学習したことで、政治の意味をとらえることができたという自覚

## 4 指導の構想

まず、子どもの経験を揃えるために、アイスアリーナでスケート体験をさせる（学級行事）。子どもは、現在身近にアイスアリーナがあることよさを実感するだろう。

スケート体験後、アイスアリーナの利用状況が分かる資料を提示する。子どもは資料から、多くの一般利用者がいることや、スケート競技のために利用されていることが分かり、アイスアリーナが多くの人々にとって価値ある施設であると感じる。このような子どもに、次のように働き掛ける。

### 働き掛け 1

**市がアイスアリーナを建設した事実と、市がスケート場を建設することは難しいと方針を示した事実を提示し、疑問に思うこと、これからみんなで考えたいことを問う。**

市がアイスアリーナを建設した目的や要因を追究する学習問題を設定させるための働き掛けである。まず、市が平成25年から約22億3千万円をかけてアイスアリーナを建設し、平成26年1月に完成した事実（課題解決の結果）を提示する。子どもは、アイスアリーナに抱いている価値観と市が多額の税金を使って建設した事実を結び付け、市が建設したことの価値を感じる。

このような子どもに、平成15年に「新潟アイスリンク」が閉鎖し、市にスケート場が無くなった事実と、当時市がスケート場を建設することは難しいと方針を示した事実（地域社会の課題）を年表に載せて提示する。このとき提示する**結果と課題のみが分かる年表資料**が、「対象①」である。子どもは、比較するすべを用いて、市がしたことの違いに気付き、驚きや疑問を感じる。

このような子どもに、疑問に思うこと、これからみんなで考えたいことを問う。子どもは、「建設することは難しいと言っていたのに、なぜ市はアイスアリーナを建設したのだろうか。どのようなことがあったのだろうか」と、市がアイスアリーナを建設した目的や要因を追究する学習問題を設定する。

### 働き掛け 2

**子どもの予想から追究の視点を設定し、アイスアリーナ建設までの経緯が分かる年表資料を提示する。**

既有的知識を基に、学習問題の解決につながる事実を調べることができるようにするための働き掛けである。「対象①」には上述の事実しか載っていない。学習問題を設定した子どもは、関係付けるすべを用いて、平成15年から平成25年までの間に何ががあったのか、その間の出来事を既有的の日本国憲法の知識や歴史学習で得た知識を基に予想する。具体的には、「既有的知識を基に、市がアイスアリーナを建設した目的や要因」について考え始める。

そこでまず、学習問題についての予想を発表させる。子どもは、「市民がつくってほしいとお願いしたのではないかと」「決定権のある人が決めたのではないかと」などと予想を発表する。下線部分は、学習問題の解決と本単元における中核的な学習内容につながる重要な視点である。これらを取り上げ、追究の視点として板書する。しかし、「対象①」には間の事実（出来事）が載っていないため、子どもは「誰が何をしたのか」事実が知りたいと資料を求める。

このような子どもに、**アイスアリーナ建設までの経緯が分かる年表資料（「対象②」）**を提示し、「誰が何をしたのか」分かった事実を付箋紙に記述させる。子どもは、関係付けるすべを用いて、追究の視点を基に、学習問題の解決につながる事実（「誰が何をしたのか」）を調べて付箋紙に記述する（「学びをつなぐ力」①）。

----- ここから本時 -----

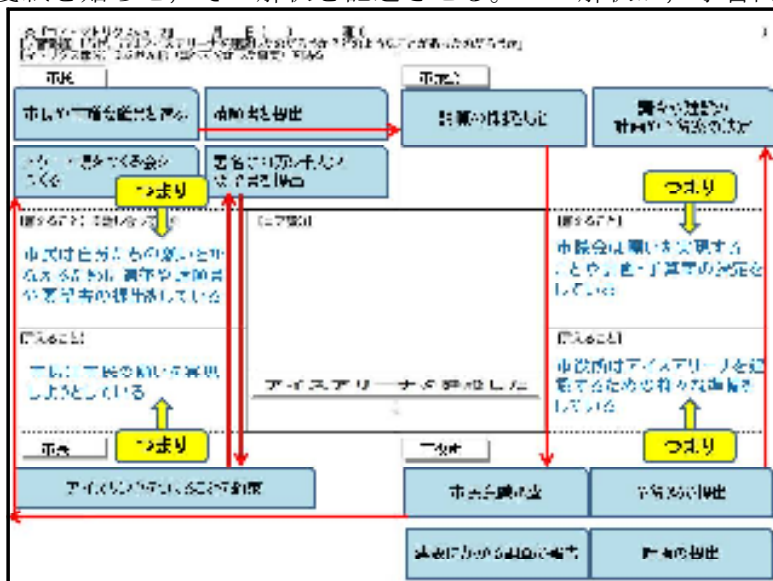
**働き掛け3（1日目）**

**調べて分かった事実とその解釈を問い、小グループで「コア・マトリクス2」のマトリクス部分にまとめさせる。**

複数の事実を結び付けて学習問題について考え、人々の願いが実現するまでの政治の仕組みを明らかにできるようにするための働き掛けである。

まず、小グループに「コア・マトリクス2」（思考の可視化と自覚化を促すための思考ツール）を配付し、調べて分かった事実とその解釈（事実から言えること）を問う。そして、「コア・マトリクス2」のマトリクス部分に付箋紙を貼らせ、その解釈を記述させる。この解釈が、学習問題の解決に必要な情報となる。

事実とその解釈を問うことで、子どもは比較するすべと関係付けるすべを用いて、付箋紙に書いた事実を分類したり結び付けたりして事実の解釈を考える。そして、「市民は願いを実現するために行動している」「市役所は市民の願いを実現するために調査をしたり、計画を立てたりしている」「市議会は市民の願いを実現することを決めている」などと、調べて分かった事実から、市民、市長、市役所、市議会の働きや関係を見いだす。



次に、分かった事実とその解釈を発表させ、学級全体の「コア・マトリクス2」に書き込んでいく。このとき、市民、市長、市役所、市議会の関係を矢印で示す。子どもは、比較するすべと関係付けるすべを用いて、学習問題の解決につながる事実と解釈を結び付けて、アイスアリーナ建設の目的や要因と政治の仕組みを明らかにしていく。

**働き掛け4（1日目）**

**学習問題についての結論を問い、「コア・マトリクス2」のコア部分を考えさせる。**

事実と解釈を総合して考える思考を促し、政治の仕組みと意味をとらえさせるための働き掛けである。「一体なぜ、市はアイスアリーナを建設したのか」と、学習問題についての結論を問い、「コア・マトリクス2」のコアの部分の考え（結論）を記述させる。その後、学級全体で考えを交流させる。子どもは、比較するすべと関係付けるすべを用いて、マトリクス部分の解釈を総合して考え、「たくさんの市民がアイスアリーナの建設を願って行動した。だから市議会はアイスアリーナ建設の決定をして、市役所はアイスアリーナ建設のための調査や計画・準備をして、アイスアリーナが完成した。市はたくさんの市民の願いを実現するためにアイスアリーナを建設したんだ。これはまさに国民主権だ」などと、**人々の願いを実現する政治の仕組みと意味を、国民主権と関連付けてとらえる子ども**になる。

また、「学びをつなぐ力」の有用性の自覚を促すために、ワークシートに学習のまとめを書かせる。ここではふり返りの観点として、①今日の学習で分かったこと・考えたこと・思ったことと、②考え方のコツを書くように指導する。①②の観点でふり返らせることで、子どもは、比べて・つなげて・まとめてなどと、自分がどのように考えてどのようなことが分かったのかを説明する。この姿が「学びをつなぐ力」の有用性を自覚した姿である。

5 指導計画 全10時間 (30Q) 別紙「指導計画」参照

6 本時の構想<第1日目> 4/10時間 (45分授業)

(1) ねらい

アイスアリーナ建設の目的や要因と一連の過程を明らかにすることを通して、市民の願いを実現する政治の仕組みと意味を、国民主権と関連付けてとらえることができる。

(2) 展開

学習活動と子どもの姿 ☆つなぐ力	教師の働き掛け
<p>1 「コア・マトリクス2」を使って、立場ごとに事実を整理し、その解釈を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・よし、「コア・マトリクス2」だ。</li> <li>・マトリクス部分に付箋紙を分けて貼って、そこから言えることを相談して書く。</li> <li>・今回は、誰がしたか立場で分けるといい。</li> <li>・市民、市長、市議会、市役所で分ける。</li> </ul> <p>&lt;小グループ活動&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これは市民だよ。</li> <li>→市議会議員や市長を選挙で選んでいる。</li> <li>→たくさんの市民の願いを市長や市議会に届けている。<u>つまり願いを聞いてもらおうと行動している。</u></li> <li>・これは市長。</li> <li>→市長は市民に選ばれている。<u>だから市民の願いを実現する約束をしている。</u></li> <li>・これは市議会</li> <li>→議員は市民に選ばれている。市民の請願をかなえる決定をしている。</li> <li>→市役所が考えた計画や予算案の決定をしている。<u>つまり決定するのは市議会なんだ。</u></li> <li>・これは市役所</li> <li>→市民調査や立地可能性調査をしている。</li> <li>→計画や予算案をつかって市議会に報告している。<u>つまり、市役所は実際に建設するためのいろいろな準備をしているんだ。</u></li> </ul> <p>&lt;全体&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市民が市長や市議会議員を選んで、<u>請願や要望をして、市役所が計画や予算案をつかって市議会に提出して、市議会がすべてを決定している。</u></li> <li>・<u>つまり、市長や市議会や市役所は、市民の願いを実現しようとしている。</u></li> <li>・<u>市民の意見が基になっている。国民主権だ。</u></li> </ul> <p>☆下線部：つなぐ力②を発揮している姿</p>	<p>○調べて分かった事実とその解釈を問い、小グループで「コア・マトリクス2」にまとめさせる。【働き掛け3】</p> <p>※学習問題を提示する。</p> <p>◎「なぜ市はアイスアリーナを建設したのだろうか。どのようなことがあったのだろうか」</p> <p>○説明「みんなが欲しがっていたコア・マトリクス2を用意しました」</p> <p>○発問「どのように使えばよいですか」「マトリクス部分の分け方はどのようにしたらよいですか」</p> <p>○発問「どのような事実が分かりましたか。また、事実からどのようなことが言えますか」</p> <p>○指示「市民、市長、市議会、市役所で整理して、事実から言えることを話し合ってからマトリクス部分に書きましよう」</p> <p>○補助発問：「これらから、どのようなことが言えますか」「〇〇は何をしているのですか」</p> <p>○補助発問「比べたりつなげたりして考えたときは矢印と矢印の意味を書きましよう」</p> <p>○指示「それでは、分かった事実とそこから言えることを発表ましよう」</p> <p>※全体の「コア・マトリクス2」に事実とその解釈を書き込んでいく。</p> <p>※補助発問「～さんは、このことをつなげて考えたのですね」</p> <p>○発問「では、それぞれの関係はどのようになりましようか」</p> <p>※市民、市長、市役所、市議会の関係を矢印で示す。</p>
<p>2 学習問題の結論を考え、政治の仕組みと意味をとらえる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コア部分が分かってきた。</li> <li>・マトリクス部分を総合して考えればいい。</li> <li>・たくさんの市民がアイスアリーナの建設を願って行動した。だから市議会はアイスアリーナ建設の決定をして、市役所はアイスアリーナ建設のための調査や計画・準備をして、アイスアリーナが完成した。市はたくさんの市民の願いを実現するためにアイスアリーナを建設したんだ。これはまさに国民主権だ。</li> <li>・今日は「コア・マトリクス2」を使って、それぞれの立場の事実をつなげて、まとめて考えたら学習問題の答えができた。</li> </ul>	<p>○学習問題についての結論を問い、「コア・マトリクス2」のコア部分を考えさせる。【働き掛け4】</p> <p>○発問「それでは一体なぜ、市はアイスアリーナを建設したのでしょうか。どのようにしてできたのでしょうか。コア部分は どう書いたらいいですか」</p> <p>○指示「ワークシートの自分の考え②に結論を書きましよう」</p> <p>○指示「考えを発表ましよう」</p> <p>○指示「最後に、学習のまとめを分かったこと・考えたこと・思ったことを入れて、ワークシートの自分の考え③に書きましよう」「考え方のコツも書きましよう」</p>

(3) 評価

人々の願いを実現する政治の仕組みと意味を、国民主権と関連付けてとらえているか。また、「学びをつなぐ力」を発揮、自覚しているかを、発言及びワークシートの記述から判断する。